

2023(令和5)年度

板橋区環境白書



ゼロカーボン
いたばし2050

2024(令和6)年3月



「エコポリス板橋」環境都市宣言

豊かな自然 澄んだ空気 静かでやすらぎのある暮らしは 私たちすべての区民の願いです

板橋区には みどりと水の豊かな自然やいきいきとしたまちなみなど 誇れる環境が残されています

しかし 近年の盛んな都市活動は かつての良好な環境を徐々に失わせ さらに地球環境をも悪化させています

環境にやさしい暮らし方や事業活動を進めながら かけがえのない地球環境を子孫に引き継いでいくことが 私たちに課せられた責務です

私たち板橋区民は 真に快適な環境を創造するために 人と環境が共生する都市「エコポリス板橋」の実現を目指していくことをここに宣言します

- 1 私たちは 毎日の生活が地球環境に影響を及ぼしていることを認識し 地球市民として行動します
- 2 私たちは リサイクルの推進やエネルギーの節約に努め 地球の資源を大切にします
- 3 私たちは みどりや水 空気を大切に守り 様々な生物が共に生きていける環境づくりに努めます

平成五年四月一日



ゼロカーボン いたばし2050

Eat Carbon up to ZERO

近年、世界中で地球温暖化による異常気象が発生し、日本においても、これまで経験したことのない集中豪雨や強大化した台風などにより、甚大な被害が発生しています。このまま地球温暖化が進むと、その影響は様々な場面で顕在化し、ますます深刻化していくことが科学的に示されており、世界は今、気候非常事態に直面しています。

板橋区は、人と緑を未来へつなぐスマートシティを推進し、持続可能な社会を構築するため、気候非常事態を宣言し、あらゆる主体と連携・協働して社会全体の自主的な行動変容を促すとともに、エコロジー、エネルギー、エコノミーが調和した取組により、2050年に二酸化炭素排出量実質ゼロをめざすことをここに表明します。

- 1 エネルギーの効率的な利用をすすめ、再生可能エネルギーを最大限活用するまちづくりに貢献します。
- 2 環境配慮型製品やサービスの普及に努め、限りある資源の循環的な利用をすすめます。
- 3 持続可能な森林の整備と適正に管理された森林資源の活用を推進するとともに、緑と調和したまちづくりに取り組みます。
- 4 スマートインフラやデジタルトランスフォーメーションを積極的に活用し、地球環境を考えた持続可能な活動を実践します。
- 5 区民・事業者をはじめとしたオール板橋の協働により、気候変動の影響による被害を防止・軽減し、安心・安全な社会の構築に貢献します。

令和4年1月26日 板橋区長

坂本 健

はじめに

環境問題は人類のあらゆる社会活動から生じるものであり、環境・経済・社会の諸課題は密接に関係していると言われていています。これまでの経済発展・技術開発により、私たちには豊かで便利な生活がもたらされましたが、一方で大気・水質などの環境汚染、環境破壊などにより地球環境は悪化しました。

さらに、近年では地球温暖化の影響による気候災害の激甚化、海洋プラスチックごみ問題や生物多様性の損失など、環境問題はますます多岐にわたり、かつ深刻化してきています。

こうした中、我が国は、2020年10月に、2050年までに温室効果ガスの排出を全体としてゼロにし、脱炭素社会の実現を目指す「2050年カーボンニュートラル」を宣言しました。

板橋区においても、2022年1月に、地球温暖化への強い危機感のもと、2050年までに二酸化炭素排出量を実質ゼロにする「ゼロカーボンシティいたばし2050」を表明し、実現に向けた取り組みを進めています。一方、気象庁によると、2023年の世界の平均気温は1891年の統計開始以降最も高い値となり、近年の地球温暖化を象徴するような年となりました。

私たちは、このような地球温暖化などの差し迫った環境問題に対し、一人ひとりが「自分事」として捉え、課題解決に向けて取り組むことが重要です。そのためには、これまで以上に私たち一人ひとりが環境問題に関心を寄せ、対応策について学び続け、家庭や職場など様々な場面において、環境への負荷を減らす取り組みを実行するとともに、区民・事業者の皆様と区が、連携・協働し、環境への取り組みを進めていくことが大切です。

これまでも区民・団体・事業者の皆様のご協力により、環境美化活動や環境保全活動など様々な活動が行われ、区内の環境改善に大きな成果をあげてきました。この環境白書は、板橋区の環境の現状と環境保全に関する施策の成果を報告する環境報告書です。併せて、区民の皆様とのパートナーシップの形成や区民一人ひとりの環境行動が推進されるような情報提供を目的にしています。

今後、より良い環境白書にするため、ご意見・ご要望等があれば、ぜひお寄せいただきますようお願いいたします。

最後に区民の皆様には、板橋区の環境への取り組みに対しまして、一層のご理解とご協力を賜りますよう心からお願い申し上げます。

目 次

第1部 環境基本計画の推進

- 1 「板橋区環境基本計画 2025」について 1
- 2 計画の推進と進行管理 3
- 3 板橋区の環境とSDGs 10

第2部 環境保全の取り組み

基本目標1 脱炭素社会の実現

- 1 板橋区の現状 12
- 2 環境施策の活動状況
 - (1) 区民・事業者における省エネ・再エネの推進 13
 - 緑のカーテンの普及 13
 - クールビズ・ウォームビズ 14
 - いたばし環境アクションポイント事業 14
 - 板橋区環境マネジメントシステム 15
 - 企業の環境マネジメントシステム構築・維持支援 18
 - 環境に配慮した商店街の活動 19
 - (2) 建物や交通などインフラの脱炭素化の推進 20
 - 本庁舎及び区施設への再生可能エネルギー100%電力の導入 . . . 20
 - 板橋区建築物等における省エネルギー・環境配慮に関する指針 . . 20
 - LED街灯 21
 - 板橋区の自動車公害対策 21
 - 自転車通行空間整備事業 22
- 3 関連計画・事業
 - 板橋区地球温暖化対策実行計画 23
 - 他自治体・海外とのパートナーシップ（イクレイ） 24
 - 区におけるスマートシティへの取り組み 24

基本目標2 循環型社会の実現

- 1 板橋区の現状 28
- 2 環境施策の活動状況
 - (1) 板橋かたつむり運動の推進 29
 - 板橋かたつむり運動 29
 - 区民・事業者とのパートナーシップ 30
 - 発生抑制 30
 - リサイクルプラザ 31
 - (2) 適正で効率的なごみ収集・処理体制の構築・運用 32
 - 清掃リサイクル事業の運営 32
 - ごみ出しルールの徹底 32
 - ごみ収集 33
 - 資源回収 35
 - ごみの処理 36
 - 区民・事業者主体のリサイクル 37
- 3 関連計画
 - 一般廃棄物処理基本計画 38

基本目標3 自然環境と生物多様性の保全

- 1 板橋区の現状 40
- 2 環境施策の活動状況
 - (1) 板橋区らしい良好な緑や水環境の保全・創出 42

民有地の緑の保全	42
緑化指導による緑化	43
自然との共生	45
水環境の保全と活用	46
公園	48
水質汚濁・湧水保全	49
(2) 自然とのふれあい促進や自然の恵みの享受	51
緑を楽しむライフスタイル	51
農地の保全	51
熱帯環境植物館	52
自然・いきものアルバム事業（区民参加による自然探索事業）	53
エコポリスセンターかんきょう観察員	53
基本目標4 快適で健康に暮らせる生活環境の実現	
1 板橋区の現状	54
2 環境施策の活動状況	
(1) 大気汚染や騒音などのない生活環境の保全	55
大気環境の保全	55
アスベスト対策	58
放射線対策	59
騒音・振動対策	60
悪臭対策	64
土壌汚染対策	65
PCB 対策	65
有害化学物質対策	66
公害の未然防止	67
公害相談・苦情	70
環境調査に関する情報の発信	73
(2) 潤いのある景観や美しい街並みの保全	74
良好な都市景観	74
環境美化活動	75
基本目標5 「環境力」の高い人材の育成	
1 板橋区の現状	77
2 環境施策の活動状況	
(1) 環境教育の推進、環境保全活動を担う人材の育成	79
エコポリスセンター	79
学校における環境教育	80
(2) わかりやすい環境情報の発信	83
環境情報の発信	83
環境イベントの開催	84
3 関連計画	
板橋区環境教育推進プラン 2025	84
基本目標6 パートナーシップが支えるまちの実現	
1 板橋区の現状	86
2 環境施策の活動状況	
(1) 環境保全活動への参加や協働を進める仕組みづくり	88
エコポリス板橋クリーン条例	88
エコポリス板橋環境行動会議	88
エコポリス板橋環境活動大賞	89
区民団体における取り組み	90

参考資料

- 1 板橋区の概況・年表 91
- 2 用語解説 96
- 3 板橋区環境基本計画の変遷 100
- テレフォンガイド 101
- ご意見・ご要望をお寄せください（板橋区環境白書アンケート） 103

《板橋区環境白書の役割》

板橋区では、環境基本計画（第一次）が策定された 1999（平成 11）年度より、板橋区の環境全般についてまとめた「板橋区環境白書」を発行しています。環境白書では、環境基本計画に基づいて取り組まれた環境施策の進捗状況や区の環境の現状などを、計画の構成に沿って公表しています。

●本書第2部以降の構成●

第2部 環境保全の取り組み 基本目標1 脱炭素社会の実現

第2部 環境保全の取り組み

基本目標1 脱炭素社会の実現

1 板橋区の現状

■ 区内エネルギー消費量

指標名	基準年度 平成24年度	めざす 方向性	目標値 令和7年度	実績値 平成29年度	(参考) 達成率	進捗率	進捗度
区内エネルギー消費量 (熱量換算)	24,307 TJ※1	↓	22,901 TJ※2	21,862 TJ※3	173.9% A A	100% 以上	順調

区内エネルギー消費量は、電気やガスの使用、自動車の燃料であるガソリンによるものが大部分を占めていますが、東日本大震災以降、省エネ・節電対策や再生可能エネルギー（※P95）の普及が進んだことにより、基準年度と比較し順調に減少傾向で推移しているといえます。平成29年度の値が前年度と比較して増加しているのは、ガスの消費量の増加が要因として考えられます。

図2-1-1 区内エネルギー消費量の推移

第2部では、環境基本計画の基本目標ごとに、「1 板橋区の現状」と「2 環境施策の活動状況」を紹介します。

「1 板橋区の現状」では、各基本目標の環境指標について紹介します。

第2部 環境保全の取り組み 基本目標1 脱炭素社会の実現

2 環境施策の活動状況

(1) 区民・事業者における省エネ・再エネの推進

■ 緑のカーテンの普及

緑のカーテン（※P97）は、窓の外に植物を寄せた自然のカーテンで、夏場の強い日差しを和らげ、冷房の使用を抑えることが...

就学児及び小学生を対象とした「キッズ絵日記部門」を新設しました。当年度は、個人部門10作品、団体部門3作品、公共施設部門...

「2 環境施策の活動状況」では、各環境施策の取り組み概要を基本計画に沿って紹介します。

各環境施策の活動指標に関連するSDGs アイコンを掲載しています。

（※POO）は、巻末の用語解説に掲載しています。
（関連 POO）は、本書内で関連するページとなります。

緑のカーテン（板橋区役所本庁舎）

関連する活動指標

指標名	基準年度 平成26年度	めざす 方向性	実績値 平成30年度	実績値 令和元年度	進捗度
区公共施設における緑のカーテン実施施設数	180 施設	↓	161 施設	167 施設	後退

今後の対策：公共施設は数が限られているため、今後も大きな増減はありませんが、引き続き、施設側のニーズを把握し適切に育成支援（資材提供）していきます。

関連するホームページ
(緑のカーテン) <https://www.city.itabashi.tokyo.jp/bousai/kankyo/curtain/index.html>

各環境施策に関連のある活動指標を、P7～P8 に掲載されている一覧表から抜粋して掲載しています。

各環境施策に関連のあるホームページアドレスを掲載しリンクを貼っています。詳細や最新情報はリンク先ホームページでご確認ください。

第1部 環境基本計画の推進

1 「板橋区環境基本計画」2025について

2009（平成21）3月に策定した板橋区環境基本計画（※P96）（第二次計画）以降、東日本大震災に伴うエネルギー需給のひっ迫による省エネルギーへの取り組みや再生可能エネルギー導入の加速化、人口減少社会への移行など、行政を取り巻く環境が大きく変化してきました。さらに、水素エネルギーの活用など新技術の発展、国際社会における新しい地球温暖化対策の枠組みへの合意など、状況は刻々と変化し続けています。

第二次計画の期間満了（2015（平成27）年度）にあたり、このような状況変化への対

応を図り、板橋区における環境保全の取り組みをより効果的に進めていくため、2016（平成28）～2025（令和7）年度を計画期間とする新たな環境基本計画として、「板橋区環境基本計画2025」を2016（平成28）年3月に策定しました。

本計画は、“環境像”＝概ね10年後のめざすべき環境の姿（図1-1-1）を設定するとともに、環境像のもと、個別分野ごとの環境課題に対応した6つの基本目標を設定しています（図1-1-2）。

人と緑を未来へつなぐスマートシティ“エコポリス板橋”

区の環境の将来像＝10年後の姿

武蔵野の面影を残す徳丸・赤塚の樹林地、広大な河川敷を有する荒川や美しい桜並木に彩られる石神井川など、緑と水やきれいな空気に囲まれ、生物の多様性が保全されるなど、自然環境との共生が進んでいます。

またスマートシティに向けてICT（情報通信技術）（※P99）など最先端の技術が整備され、エネルギーを効率的に生みだし使用するライフスタイルが定着するとともに、水素や再生可能エネルギーなどの有効な資源の活用が進み、環境や防災面で持続可能な脱炭素社会※を実現するまちづくりが進んでいます。

さらには、区民一人ひとりや事業所のごみ減量・リサイクルなど環境に対する意識が高く、世代や職業、地域の枠を越えて、地域全体が連携して活動が進み、資源循環型社会が実現しています。



図1-1-1 「板橋区環境基本計画2025」が掲げる環境像

※ 「板橋区基本計画2025」のアクションプログラムである「いたばしNo1実現プラン2025」の策定により、施策名における「低炭素社会」は「脱炭素社会（※P97）」へと変更されたことに伴い、「低炭素社会」は「脱炭素社会」と読み替えることとします。



図1-1-2 「板橋区環境基本計画2025」の体系

※ 出典：板橋区環境基本計画2025（2016（平成28）年3月策定）
 ※ 環境基本計画2025策定当時の基本目標1は「低炭素社会の実現」ですが、「板橋区基本計画2025」のアクションプログラムである「いたばしNo1実現プラン2025」の策定により、施策名における「低炭素社会」は「脱炭素社会」へと変更されたことに伴い、本白書では「低炭素」は「脱炭素」と読み替えることとします。

2 計画の推進と進行管理

(1) 進行管理の体制

「板橋区環境基本計画2025」（以下「現行計画」という。）を実効性のあるものとしていくため、計画の進行管理を行います。計画の進行管理は、学識経験者などで構成された区の付属機関である「板橋区資源環境審議会」及び庁内検討組織である「『エコポリス板橋』推進本部」により行われます。また、環境保全活動に関する区民や事業者への普及啓発や区との連絡調整のため、区民や事業者などによる「エコポリス板橋環境行動会議」と連携しながら計画を推進していきます。進行管理の体制と各組織の役割は以下のとおりです（図1-1-3）。

(2) 現行計画の進行管理

計画の進行管理を適切に行うためには、計画の達成度を評価するための指標の設定が重要となります。

現行計画では、主に6つの基本目標に対す

る達成状況を評価する「環境指標」と、環境施策の活動状況を把握する「活動指標」の2種類を設定しています。環境指標は、環境保全に資する取り組みを実施した結果、区民などにもたらされた影響を数値化したもので、原則としてアウトカム指標（成果指標）を用いています。一方、活動指標は、取り組みの具体的な活動量（「何をどの程度提供したか」など）を定量的に示したもので、原則としてアウトプット指標を用いています。また、どちらの指標にも、その数値の増減が良い方向に向かっているのか、又は悪い方向に向かっているのかを判断する基準として「めざす方向性」を示しています。（数値の増減で良し悪しを評価することができないものについては「－」で示しています。）現行計画では、これらの指標の数値変化などをもとにして進行管理を行っていきます。

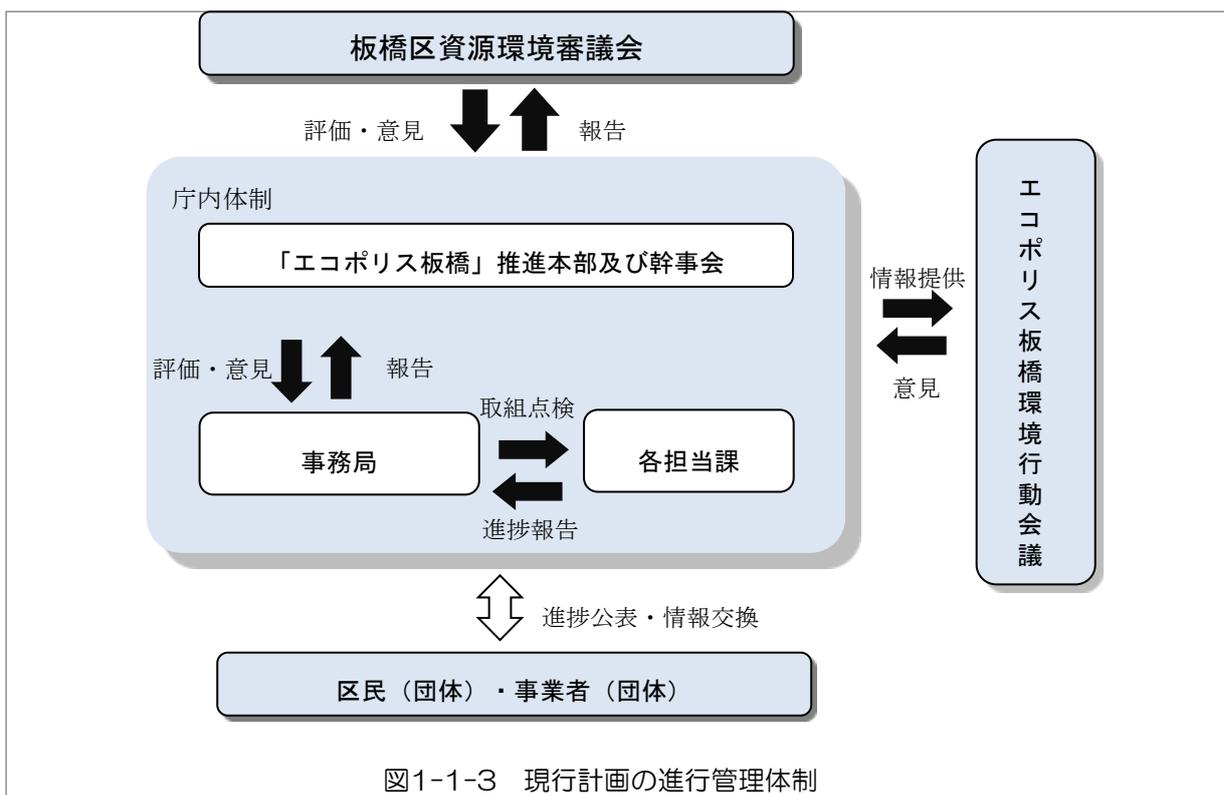


図1-1-3 現行計画の進行管理体制

① 「環境指標」による進捗管理

指標名	基準年値 平成26年度	めざす 方向性	目標値 令和7年度	実績値 令和3年度	実績値 令和4年度	進捗率	進捗度 ※11
基本目標1：脱炭素社会の実現							
区内エネルギー消費量※1 (熱量換算)	—	—	—	20,567TJ※4	20,194TJ※5	—	—
区内温室効果ガス排出量	231.8万t-CO ₂ ※2	↘	162.3万t-CO ₂ ※3	196.4万t-CO ₂ ※4	190.9万t-CO ₂ ※5	58.8%	順調
基本目標2：循環型社会の実現							
区民一人当たりの一日の ごみ排出量	689g※6	↘	598g※7	645g	622g	73.6%	順調
リサイクル率	21.5%※6	↗	28.0%※7	22.5%	22.0%	7.7%	漸進
基本目標3：自然環境と生物多様性の保全							
区全体の植生被覆率	18.3%	↗	21%	—※8	—※8	—	—
公園率	5.9%	↗	6.1%	5.9%	5.9%	0%	停滞
石神井川における生物化学的 酸素要求量 (BOD75%値)	0.7 mg/L	—	1.0 mg/L以下	0.8mg/L	0.9mg/L	100% 以上	順調
白子川における生物化学的酸 素要求量 (BOD75%値)	3.8 mg/L	↘	2.0 mg/L以下	2.8mg/L	2.7mg/L	61.1%	漸進
基本目標4：快適で健康に暮らせる生活環境の実現							
微小粒子状物質(PM2.5)の基 準値Bレベル以上の日数	25日	↘	23日	0日	0日	100% 以上	順調
騒音に係る環境基準の達成率	79%	↗	85%	76%	77%	0%未満	停滞
基本目標5：「環境力」の高い人材の育成							
人材育成に関わる環境講座参 加者数	199人	↗	400人	218人	348人	74.1%	順調
外部人材を活用した環境学習 実施校(園)の割合	76.1%	↗	100%	52.3%	62.2%	0%未満	停滞
環境教育プログラム利用校 (園)の割合	74.4%	↗	100%	60.4%	78.4%	15.6%	漸進
エコ生活(アクション9)の実 施状況	75.0%	↗	100%	82.3%	83.8%	35.2%	漸進
基本目標6：パートナーシップが支えるまちの実現							
全区民参加型環境保全キャン ペーン参加者数	25,674人	↗	31,500人	—※9	16,675人※10	—	—
エコポリスセンター事業への ボランティア等参加者数	990人	↗	1,300人	545人	738人	0%未満	停滞
環境登録団体数	27団体	↗	37団体	29団体	25団体	0%未満	停滞
環境学習講師派遣人数	363人	↗	500人	156人	258人	0%未満	停滞

※1：「板橋区地球温暖化対策実行計画（区域施策編）」の令和2年度までの指標のため、実績のみ参考値として掲載した。

※2：「板橋区地球温暖化対策実行計画（区域施策編）2025」の基準年値(平成25年度)

※3：「板橋区地球温暖化対策実行計画（区域施策編）2025」の目標値（令和7年度）

※4：令和元年度（オール東京62市区町村共同事業「特別区の温室効果ガス排出量」より）

※5：令和2年度（オール東京62市区町村共同事業「特別区の温室効果ガス排出量」より）

※6：「板橋区一般廃棄物処理基本計画2025」の基準年値（平成27年度）

- ※7：「板橋区一般廃棄物処理基本計画2025」の目標値（令和7年度）
- ※8：植生被覆率は5年ごとの調査（参考 令和元年度実績は18.1%）
- ※9：新型コロナウイルス感染症拡大防止のため全て中止した。
- ※10：キャンペーンの一つである打ち水キャンペーンについては、従来行っていた一堂に集まって行う手法から個人で行う方針としたため、参加者数の把握が困難なことから指標の実績はその他キャンペーン（春・秋の板橋クリーン作戦、ポイ捨て防止キャンペーン）の参加者数を参考値として掲載した。
- ※11：計画最終年度の目標達成に向けた進捗状況。基準年値と比較して実績値がこのままのペースで推移した場合に、進捗率が100%以上になるものを「順調」、改善はしているものの100%に届かないものを「漸進」、0%以下になるものを「停滞」とした。令和4年度については、10か年計画の7年度目（一部を除く）であるため、進捗率が70%以上になるものを「順調」とした。なお、基本目標2については、「板橋区一般廃棄物処理基本計画2025」の計画期間が平成30年度から始まる8年間で令和4年度は5年目にあたるため、進捗率は62.5%以上になるものを「順調」とした。また、基本目標1の「区内温室効果ガス排出量」については、「板橋区地球温暖化対策実行計画（区域施策編）2025」において、基準年値を平成25年度とし目標値を令和7年度の12年間で設定しているため、1年間でおよそ8.33%数値が改善したものを「順調」とし、今回は令和2年度の評価となるため7年目の58.3%を上回れば「順調」とした。

○環境指標の進捗状況概要

基本目標1：脱炭素社会の実現

区内温室効果ガス排出量は「順調」の評価となった。東日本大震災以降における節電の取組の定着等により、区内のエネルギー消費量の減少傾向が続いているほか、再生可能エネルギーによる発電量の増加等により、都内における電力の二酸化炭素排出係数が緩やかに低下したため減少につながったと考えられる。（関連ページ：P12）

基本目標2：循環型社会の実現

区民一人当たりの一日のごみ排出量は、令和2年度から新型コロナウイルス感染症による家庭での巣ごもり需要等の影響で一時的に増加したと考えられますが、令和4年度には大きく減少に転じ「順調」の評価となったものの、リサイクル率は引き続き「漸進」となりました。リサイクル率については、令和6年度から区内全域へ拡大するプラスチック再資源化事業の本格実施を中心に、SDGsの観点を踏まえ、さらなる向上を図っていきます。（関連ページ：P28）

基本目標3：自然環境と生物多様性の保全

公園率は、昨年の実績値と変わらず横ばいで推移しています。生物化学的酸素要求量

（BOD75%値）については、石神井川は「順調」、白子川は「漸進」となり、石神井川は目標値を下回りました。公園率については、区面積（32.22 km²）に対する都市公園面積の占める割合であるが、目標値である6.1%を達成するには、都市公園の新設・増設に向けた用地確保等の課題がある。今後は、用地買収・貸借契約・使用許可等、様々な手法を駆使して公園用地の確保を努め、具体的には、荒川河川敷のうち公園化されていない箇所等、比較的規模の大きい公有地の公園化等を図り、公園率の向上につなげていきます。

（関連ページ：P40）

基本目標4：快適で健康に暮らせる生活環境の実現

微小粒子状物質（PM2.5）は、平成26年度以降、年間を通じた測定結果が得られ、基準値Bレベル以上の日数は昨年に続いて0日で「順調」に推移しています。理由としては、工場等のばい煙発生施設の規制や自動車排気ガス規制等が考えられます。騒音に係る環境基準の進捗率は、基準年値を下回り「停滞」となりました。騒音に係る環境基準の達成率については、自動車騒音の測定結果を道路管理者である国や都に対し提供し、道路管理者による低騒音舗装等の騒音対策が計画的に進

むよう取組を継続していきます。

(関連ページ：P54)

基本目標5：「環境力」の高い人材の育成

人材育成に関わる環境講座参加者数は「順調」の評価まで実績値が回復しました。環境教育プログラム利用校（園）の割合とエコ生活（アクション9）の実施状況については「漸進」、外部人材を活用した環境学習実施校（園）の割合については「停滞」の結果となりました。外部人材を活用した環境学習実施校（園）の割合については、多くの学校・園が外部人材を活用したため昨年の実績を大きく上回ることができました。今後も外部人材の活用について案内を行うとともに、WEB対応になっている出前授業を継続的に実施していきます。

(関連ページ：P77)

基本目標6：「パートナーシップ」が支えるまちの実現

全区民参加型環境保全キャンペーン参加者数については打ち水キャンペーンを、感染症対策の強化や熱中症予防の観点から、従来行っていた一堂に集まって行う手法から個人で個別に取り組む方針へ転換しました。そのため、他のキャンペーンである「板橋クリーン作戦」と「ポイ捨て防止キャンペーン」の参加者数を参考値として今後確認していきます。その他、エコポリスセンター事業へのボランティア等参加者数等の3つの項目で「停滞」となりました。環境登録団体数は、団体構成員の高齢化や人手不足に課題があり、団体数が減少していると考えられるため、団体が活動しやすいようにハード・ソフト両面からサポートに努めていきます。

(関連ページ：P86)

②活動指標による進行管理

2022（令和4）年度における活動指標の実績と進捗状況は以下のとおりです。なお、「進捗度」については、基準年値に対して実績値が5%以上増加（「めざす方向性」が下

向き矢印の場合は減少）したものを「進展」、5%以上減少（同増加）したものを「後退」、増減が5%未満のものを「横ばい」としました。

指標名	基準年値 平成26年度	めざす 方向性	実績値 令和3年度	実績値 令和4年度	進捗度
基本目標1					
▶環境施策1-①：区民・事業者における省エネ・再エネの推進					
区内の住宅用太陽光発電システム導入発電容量	—	—	—※1	—※1	—
区公共施設における緑のカーテン実施施設数	180 施設	↗	158 施設	162 施設	後退
環境マネジメントシステム新規構築事業所数	14 事業所	↗	2 事業所	6 事業所	後退
新エネルギー・省エネルギー機器設置補助件数	347 件	↗	—※2	—※2	—
▶環境施策1-②：建物や交通などインフラの低炭素化の促進					
「板橋区建築物等における省エネルギー・環境配慮に関する指針」に基づく省エネ建築物受付件数	57 件	↗	48件	36 件	後退
街灯の更新	— 基	↗	1,503 基	602 基	—
区役所で使用している自動車の低公害車率	74 %	↗	72 %	70 %	後退
自転車道整備延長距離（累計）	4,670m	↗	5,255m	5,560m	進展
基本目標2					
▶環境施策2-①：板橋かたつむり運動の推進					
ごみ減量に関する出前講座の実施回数	43 回	↗	—※3	43 回	横ばい
資源回収品目数	11 品目	↗	11 品目	11 品目	横ばい
リサイクル推進員研修会参加者数	433 人	↗	264 人	275 人	後退
小型家電の資源売却量※4	544,570 kg	↗	508,355 kg	438,999 kg	後退
いたばしエコ・ショップ（ゴールド）認定数	—	—	—※5	—※5	—
▶環境施策2-②：適正で効率的なごみ収集・処理体制の構築・運用					
家庭ごみの排出量（可燃・不燃・粗大ごみ）	110,742 t	↘	107,733 t	104,328 t	進展
事業系ごみの排出量（可燃持ち込みごみ）	29,520 t	↘	28,298 t	30,200 t	横ばい
資源の回収量	13,869 t	—	14,348 t	14,079 t	—
高齢者・障がい者などに対する戸別収集件数	783 件	↗	951 件	916 件	進展
集団回収登録団体数	883 団体	↗	900 団体	893 団体	横ばい
基本目標3					
▶環境施策3-①：板橋らしい良好な緑や水環境の保全・創出					
緑化指導に基づく緑化箇所数	90 件	↗	81 件	87 件	横ばい
緑化指導に基づく緑化面積	59,617 m ²	↗	10,322 m ²	10,340 m ²	後退
地域がつくる公園制度導入公園数	27 公園	↗	27 公園	28 公園	横ばい
花づくり活動登録グループ数	83グループ	↗	84 グループ	85 グループ	横ばい
保存樹木指定本数	1,842 本	↗	1,706 本	1,689 本	後退
雨水流出抑制量	4,119 m ³	↗	3,528 m ³ ※6	10,610 m ³ ※7	進展

※1：※2の事業終了に伴い評価対象外 ※2：令和3年3月末にて事業終了

※3：新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止。

※4：小型家電の資源売却については、金属価格の変動の影響を受けるため、基準年値・実績値ともに「資源回収量」を掲載した。

※5：平成30年3月末にて事業終了 ※6：令和2年度実績値 ※7：令和3年度実績値

指標名		基準年値 平成26年度	めざす 方向性	実績値 令和3年度	実績値 令和4年度	進捗度
基本目標3	▶環境施策3-②：自然とのふれあい促進や自然の恵みの享受					
	グリーンフェスタ参加者数	8,073 人	↗	—※3	2,593 人	後退
	緑のガイドツアー参加者数	102 人	↗	89 人	84 人	後退
	熱帯環境植物館来館者数	103,925 人	↗	100,581 人	122,830 人	進展
	エコポリスセンター「環境観察員」登録者数	57 人	↗	73 人	64 人	進展
	区民農園応募者数	3,144 世帯	↗	2,687 世帯	2,555 世帯	後退
基本目標4	▶環境施策4-①：大気汚染や騒音などのない生活環境の保全					
	公害苦情件数	251 件	↘	225 件	228 件	進展
	公害相談件数	2,182 件	—	2,428 件	927 件	—
	公害関係法令に基づく改善指導件数	201 件	—	217 件	203 件	—
	「板橋区大気情報公開システム」アクセス件数	458,533 件	↗	263,131 件	347,419 件	後退
	環境調査に関する情報のツイッター発信数	25 件	↗	146 件	125 件	進展
	▶環境施策4-②：潤いのある景観や美しい街並みの保全					
	景観形成重点地区指定数	4 地区	↗	4 地区	5 地区	進展
	「板橋クリーン作戦」参加者数	18,721 人	—	—※3	16,459 人	—
	「板橋クリーン作戦」におけるごみ回収量	6,600 袋	—	—※3	6,127 袋	—
路上禁煙地区(8地区)内の定点におけるたばこのポイ捨て月平均本数	1,300 本/月※8	↘	626 本/月	589 本/月	進展	
基本目標5	▶環境施策5-①：環境教育の推進、環境保全活動を担う人材の育成					
	環境講座・教室開催回数	677 回	↗	338 回	583 回	後退
	環境講座参加者数（人材育成に関わる講座を除く）	22,898 人	↗	11,451人	15,261人	後退
	環境学習講師派遣人数	363 人	↗	156 人	258 人	後退
	環境学習施設の入館者数	270,195 人	↗	250,761人	287,511人	進展
	環境講座受講前後の知識・考え方の変化	63 %※9	↗	86.4 %	86.4 %	進展
	▶環境施策5-②：わかりやすい環境情報の発信					
	区から発信する環境情報の更新回数	356 件	↗	893 件	1,523 件	進展
	環境イベント等開催回数	244 回	↗	82 回	181 回	後退
	環境イベント等参加者数	96,949 人	↗	12,983 人	22,487 人	後退
基本目標6	▶環境施策6-①：環境保全活動への参加や協働を進める仕組みづくり					
	ボランティアなどの協力を受入れたエコポリスセンター事業数	183 件	↗	137 件	181 件	横ばい
	自主講座支援回数	2 回	↗	1 回	1 回	後退
	喫煙マナーアップ推進員人数	157 人	↗	82 人	79 人	後退
	集団回収登録団体数【再掲】	883 団体	↗	900 団体	893 団体	横ばい
	地域がつくる公園制度導入公園数【再掲】	27 公園	↗	27 公園	28 公園	横ばい
	花づくり活動登録グループ数【再掲】	83グループ	↗	84 グループ	85 グループ	横ばい

※8：平成27年4月～平成28年1月までの10か月間の平均値 ※9：平成28年度実績値

○活動指標の主な成果

基本目標1：脱炭素社会の実現

「いたばし環境アクションポイント事業」を実施し、区民や事業者の省エネに対する取組を支援しました。また、区の本庁舎や施設への再生可能エネルギー100%電力の導入を23施設から26施設へと拡大するとともに、本庁舎の庁有車として再生可能エネルギー100%電力を利用する電気自動車を1台配備しました。その他、使い捨てのペットボトルの利用を減らすため、区の本庁舎や施設へマイボトル用のウォーターサーバーを設置し、区が表明したゼロカーボンシティの実現に向けた取組を進めました。

基本目標2：循環型社会の実現

家庭ごみの排出量（可燃・不燃・粗大ごみ）については、令和2年度からのコロナ禍において一時的に増加しましたが、令和4年度は104,328 tと計画期間内で最も低い値となりました。

基本目標3：自然環境と生物多様性の保全

令和4年度の熱帯環境植物館の来館者数は基準年値を大きく上回り、新型コロナウイルス感染症による落ち込みからの回復が見られました。

基本目標4：快適で健康に暮らせる生活環境の実現

板橋区大気公開システムのアクセス件数については、基準年値より減少しています。この要因としては、これは区の大気環境が順調に改善している状況にあることから、区民の安心感につながったことが要因と推察されます。また、大気環境が改善されたことから、大気情報公開システムは令和4年度をもって終了しました。

基本目標5：「環境力」の高い人材の育成

令和4年度は新型コロナウイルス感染症による活動の制限が緩和され、基本目標5の成果指標はいずれも昨年度より実績値が改善しました。環境講座受講前後の知識・考え方の変化した受講者の割合についても、基準年値を大幅に上回りながら推移しており環境教育の活動が効果的に行われていることが確認できました。

基本目標6：パートナーシップが支えるまちの実現

エコポリスセンター事業へのボランティア等参加者数については、新型コロナウイルス感染症による活動の制限を緩和しボランティアの受け入れ人数を増やし、昨年度実績を大きく上回ることができました。

3 板橋区環境とSDGs

2015（平成27）年9月に国連本部で開催された「国連持続可能な開発サミット」で「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための2030アジェンダ」が採択されました。ここで掲げられた2030（令和12）年を年限とする国際目標が持続可能な開発目標（SDGs）（※P99）です。持続可能な世界

を実現するための17のゴールと、それらを達成するための具体的な169のターゲットから構成されています。

板橋区で取り組む環境関連事業においても、SDGsの目標達成に寄与しており、その一例をご紹介します。



SDGs 未来都市に選定

2022（令和4）年5月、板橋区は「SDGs 未来都市」に選定されました。「SDGs 未来都市」とは、内閣府がSDGsの達成に向けた取組を積極的に進める自治体を公募し、優れた提案を行った自治体を選定する制度です。板橋区は「絵本がたなぐ『ものづくり』と『文化』のまち～子育てのしやすさが定住を生む教育環境都市～」をテーマとして提案し、その取組が認められました。



EVバイク等促進事業

EVバイク等を活用した新たなサービスのビジネスモデルを構築し、今後のEVバイク等の普及に関連する諸施策の推進の一助とするためなど連携し、EVバイクバッテリー交換のためのステーションを設置しています。



宅配ボックス助成事業

区では2022（令和4）年度から、感染症対策や温室効果ガス排出量の削減などのため、戸建てや集合住宅を対象に宅配ボックスの設置を行う際の経費の一部を助成しております。





区は食品ロス削減のため、余ってしまった食品のマッチングをさせるサービスである、タバスケの利用を推進しています。食品店舗は食品を割引価格でウェブサイト上に出品し、消費者は出品された食品をお得に購入することができます。

いたばし×タバスケ



リユース容器の活用促進事業

2023（令和5）年度の「板橋区民まつり」において、プラスチックごみ削減のため、参加者の方々にレンタルのリユースカップを利用してもらう取組を行いました。プラスチックごみを減らすことはCO₂を削減することにもつながります。



木製箸の配布による木育事業

区内の保育園・幼稚園に通う5歳児クラスの子どもたちを対象に、木育をテーマにした環境教育プログラムと木製の箸を配布しています。箸は日光市産ヒノキの間伐材で作られており、環境問題を考えるきっかけを提供していくことで、多くの子どもたちが自身にできることを考え、環境に対する視野を広げてくれることを願っています。



板橋区環境基本計画2025でめざす6つの基本目標を達成し、持続可能なまちを実現するためには、これらのうちのどれか一つを追求するのではなく、全てをバランス良く実施していく必要があります。

本書第2部以降で紹介する取り組みは、それぞれが単に一つの「環境」問題を克服するためだけのものではなく、「経済」「教育」「社会」などの幅広い分野とも密接に関わり、相乗効果を生み出す可能性を含んでいます。

基本目標実現に向けて、“環境問題を克服する”ことが、同時に“地域の活性化”“環境教育の充実”“協働による社会活動推進”などにもつながっていくことを各主体が認識し、相互に連携しながら取り組みを推進することが重要となります。

このように、板橋区環境基本計画2025における基本目標実現に向けたアプローチは、SDGsとの親和性が高く、SDGsの目標達成に寄与していると言えます。